

全学共通授業科目の学習目標

教養原論	<p>教養原論は、人類が築き上げてきた諸科学・芸術の創造的な発展の中で学生が専攻する専門分野とそれ以外の分野との関係や、その位置づけについての理解を深めるとともに、幅広い視野から事象を総合的・学際的に捉えることによって、知的活動の基盤となる主体的・実証的に学ぶ態度を育成することを目的とし、以下の区分毎に学習目標を定める。</p> <p>○人間形成と思想</p> <p>「人間形成」に関わる問題を多角的に取り上げ、人間形成のありようや思想の意義について、8つの科目から学習する。①厳密に理論化された思想（哲学）を知り、理論化の基礎となる推論や論証（論理学）を通して、文化が作る規範と人間の行為との関係（行為と規範）を理解する。②人間の心のメカニズム（心理学）を知り、社会や文化の文脈の中でなされる行動（心と行動）について理解する。③人間が教えたり、学んだりする営みの理論（教育学）を知り、人間形成における教育の役割と意義（教育と人間形成）を理解する。④現代社会における科学技術と規範（科学技術と倫理）との関わりについて①から③で学習した知見から理解する。</p> <p>○文学と芸術</p> <p>人が生きる上で必要な「豊かな感性と深い叡智」を育むために不可欠な存在である「文学・芸術」について紹介する。</p> <p>具体的な作品群とその創出者である作家群の紹介を通して、人類史の長い歴史の中でそれらの作品群が果たしてきた積極的な意義、またその複雑で多面的な流れを知り、過去に人類が築き、また現に築き上げつつある文学的・芸術的なものの豊饒さについて、基本的な見識を身につけることを目標とする。</p> <p>そしてそれらを通じて、人間の「豊かな感性と深い叡智」をはぐくむ言語能力や知覚能力の根源的な重要性と意義について、正確な認識を獲得することを目標とする。</p> <p>○歴史と文化</p> <p>人間は時間のなかに生きている。「今」は「過去」に、そして「未来」につながる。この流れのなかで、人間は自然との接点を持ち、さまざまな体験をしてきた。そこから共通なものを取り出し、記録し、蓄積する。次の世代は、その蓄積を利用しながら、また新たな体験を加えていく。この総体が文化にほかならず、そこにまた歴史感覚も生まれる。大学におけるさまざまな専門領域も、そうした文化が多様に連関しながら複雑化した網目の一隅を占めるものといえる。「歴史と文化」の名の下にある各科目は、政治と経済、法と社会、科学と技術、芸術とデザインといった個別の文化に焦点を合わせながらも、個別性を超えて、時間のなかに生きる人間の姿を見つめる感覚と能力を養うことを目標とする。それは同時に、履修者ひとりひとりの現在・過去・未来を、その人生の幅を超えて、世界の現在・過去・未来と関わらせる力でもあるだろう。</p>
------	--

○人間と社会

社会とは不思議なものである。人間は、社会を作らなければ生きていけない。また人間は、社会の中で成長し、さまざまな喜びや満足を得ている。しかしその一方、人間は社会によってしばしば苦しめられる。戦争や貧困、差別や疎外、孤独や強制…。人間が作ったはずの社会には、なぜか人間を苦しめる多くの現象が満ち溢れている。

このような不思議で多様な位相をもつ社会に、私達はどのように向き合うべきなのか。それを洞察することは、現代を生きる人間に不可欠な教養であり、同時に多様な人文・社会諸科学における専門基礎にほかならない。「人間と社会」の学習は、こうした社会に関する広い視野と深い洞察力を身につけることを目標とする。

○法と政治

法と政治部会では、これからの日本と世界を担う学生諸君が、複雑化する現代社会において自らの生活をよりよいものとするのみならず、日本社会および国際社会をよくするために能動的、積極的に貢献し、そのために自信をもって意思決定ができる人間に成長できるよう、刑法、民法、憲法、国際法、環境法、道義や規範、社会の諸問題の政治的背景、国際政治など、法学と政治学の講義を問題関心に合わせてバランスよく履修し、必要な法学および政治学の知識を身に付けてもらうことを目標とする。

○経済と社会

「経済と社会」では、普段見過ごされがちな「経済のしくみ」の基本概念を学習する。このうち「経済入門」は、経済学を専門としない学生が経済学的な考え方の基礎を身につけることを目標とする。「現代の経済」は、経済学の基本概念を用いて現在の日本や国際社会が直面する諸問題を考察する能力を身につけることを目標とする。「企業と経営」は、社会人として必要になる、企業あるいは経営に関する基礎的な知識を習得することを目標とする。「経済社会の発展」は、日本経済あるいは世界経済の歴史的発展過程を理解することを通じて、歴史における変化の流れを把握し、それが現代に及ぼした影響を考察する能力を身につけることを目標とする。

○数理と情報

本科目では、我々を取り巻く自然現象や社会現象が我々にどのように関わりを持つか、数学、図形科学、情報科学の立場から学ぶ。「構造の数理」「現象の数理」「数理の世界」では、「かず」や「かたち」の構造や体系、主に解析的手法を用いた数理的考え方、数学的な概念とその展開などについて理解を深めること、「『カタチ』の科学」「『カタチ』の文化学」では、形に内在するさまざまな情報を解き明かし、形のもつ科学的、文化的意味について理解すること、「情報の世界」では、高度に発展を続ける情報化社会で情報や情報機器を安全に扱い活用するために必要な基礎知識をその歴史とともに修得することを目標とする。

○物質と技術

我々の身のまわりの物質は、分子化合物として化学の視点から理解されるが、よりミクロの視点では、電子と原子核の集合体として物性物理学の視点から捉えることもできる。さらにミクロの極限は素粒子であるが、マクロの極限である宇宙と密接な関係がある。宇宙において、地球を含む惑星系の誕生・進化に関しても理解が進んできた。また現代社会において、我々の生活は多様な人工物や科学技術に支えられている。限られたエネルギー資源・物質資源を地球環境との調和をはかりながら有効活用する技術も重要である。本科目では、物質や技術を題材に、現代社会で利用されている科学的な知識や科学的な物事の捉え方の基本を身につけることを目標とする。

<p>教養原論</p>	<p>○生命と環境 遺伝子や細胞などの働きをもとに生物が形づくられる基本的な仕組みの解明に伴い、人類は生命と健康を維持するための高度な医療技術を発達させてきた。さらに生活を豊かにするための糧として周囲の生物資源を利用し、改良を加えることで、生態系、さらには大気・海洋・固体地球・惑星系などにより構成される環境の変動と常に密接に関わっている。この科目では生命と環境の関わりについて幅広い視点から学ぶことでその理解を深め、特に医療や農林畜産業に関わる先端的科学技術、およびエネルギー・環境問題と生物多様性の保全など、今日的課題を主体的・実証的に捉える能力を身につけることを目標とする。</p> <p>○総合教養 国際協力、EU 問題から環境、震災、瀬戸内海、さらには人権問題、男女共同参画、キャリアデザインまでさまざまな現代的トピックスへの理解と関心を深めるとともに、自らの専門分野と関連付けてそれらにどうかかわるべきかを考えることにより、現代に生きる一市民としてふさわしい態度を身につける。また、神戸大学の歴史及び本学の教員が携わっている最先端の研究内容への理解と関心を深め、神戸大学生としてもつべき知識と意識を身につける。さらに講義だけでなく討議や課題学習、野外実習による体験学習、グループ活動を通して問題探究に必要な情報収集・分析、チームワーク、リーダーシップ、コミュニケーション等の汎用技能を身につけることも目標とする。</p>
<p>外国語科目</p>	<p>○外国語第Ⅰ グローバルな情報化社会にあつて、日常的、専門的ニーズに即応するための英語の水準に到達し、学生自身の専門に関連する知識に即して英語を自由に活用するとともに、自己の専門領域だけでなく、国際社会で通用する幅広い教養を修得する。</p> <p>○外国語第Ⅱ グローバル化があらゆる分野にまで浸透し、人びとを取り巻く多文化状況が日常化してきた今日、英語プラスもう一つの外国語の基礎的な学力と教養を身につけることが必要である。そこで独語・仏語・中国語・ロシア語のうち、一つの語学を選択し、1年次では、発音・文法・語彙・文章表現などの初級レベルの基礎的修得を目指す。2年次では、より高度な文法事項の理解や読解力・表現力などの中級レベルの習得を目指す。3年次では、多様なトレーニングを通して、社会・文化背景などの知識を身につけながら、実践的な運用能力をさらに向上させることを目指す。</p>
<p>情報科目</p>	<p>コンピュータなどの情報機器とネットワークにおけるコミュニケーションが必須とされる高度情報化社会において、学生はコミュニケーション技術や情報処理、情報収集・発信技術など有効な情報機器の利用方法を学ばなければならない。また、変化の激しい情報化社会に対応するためにはコンピュータやネットワークに関する普遍的な基礎概念と実践的な知識を同時に理解しておく必要がある。情報科目はコンピュータの操作技術を取得し、情報とその取り扱いに関する正しい判断力を養い、それらを日常生活や社会活動に活用できる能力を身につけることを目指す。</p>
<p>健康・スポーツ科学</p>	<p>健康・スポーツ科学は、身体と健康・運動に関する学問を学際的な視野のもとで総合化した新しい総合人間科学である。健康・スポーツ科学では、講義と実習を通して、身体運動と人体の機能・能力との関わりについての知識、安全で効果的かつ効率のよい身体運動について、及び生涯にわたって健康で豊かな生活を送るための知識と実践能力を修得することを目標とする。</p>
<p>共通専門基礎科目</p>	<p>専門教育を受けるための準備や導入として、複数の学部に通ずる基礎科目を開講している。各学部で行われる専門教育では、専門分野ごとそれぞれの性質に合わせた系統的そして累積的な知識と技術の修得が不可欠であるが、共通専門基礎科目では、専門科目を理解し修得するための基礎となる知識を身につけ、基礎的な理論を理解し、学問的なものの見方を養うことを目標とする。</p>